

2023年度（令和5年度）

福山市教育委員会会議録（第3回）

【5月30日（火）開催】

福山市教育委員会

福山市教育委員会会議録（第3回）

1 招集年月日 2023年（令和5年）5月30日（火）
午前9時00分

2 場 所 教育委員室

3 出席委員 5名

出席又は欠席	席番	名 前
出 席	1	三 好 雅 章
出 席	2	金 仁 洙
出 席	3	神 原 多 恵
出 席	4	横 藤 田 晋
出 席	5	小 丸 輝 子

4 会議に出席した事務局職員

管理部長	藤 井 紀 子
学校教育部長	亀 山 貴 治
学校教育部参与	寺 田 拓 真
教育総務課長	亀 山 聰 子
政策調整官	手 島 智 幸
施設課長 兼学校再編推進室主幹	藤野原 啓 宏
学校再編推進室長	皿 海 三樹夫
学事課長	本 宮 政 尚
学びづくり課長	片 山 富 行
学校保健課長	原 明 信
福山中・高等学校事務長	前 田 満
文化振興課 文化財担当課長	高 松 秀 幸

5 会議の書記

教育総務課総務政策担当次長	西 岡 雅 之
教育総務課職員	亀 田 千 景

【開会時刻 午前9時00分】

三好教育長	<p>それでは、ただいまから、2023年度（令和5年度）第3回福山市教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日の議案ですが、予定していた議第14号の臨時代理の承認を求めることについての案件につきましては、取り止めることとしました。議第11号は個人情報を含む案件のため、議第12号は議会提出案件のため、議第13号は人事案件のため、福山市教育委員会会議規則第13条第1項の規定により秘密会として審議したいと考えますが、御異議はございませんか。</p>
全教育委員	<p>（異議なし）</p>
三好教育長	<p>御異議なしということで、これらの案件は秘密会とし、その他の案件は公開といたします。</p> <p>初めに、日程第1 教育委員会会議録の承認についてです。</p> <p>2023年4月19日開催の第1回教育委員会会議録および2023年5月10日開催の第2回教育委員会会議録について、何かございますか。</p>
全教育委員	<p>（異議なし）</p>
三好教育長	<p>御異議ないようですので、教育委員会会議録を承認することとし、会議終了後、委員の皆さまの署名をお願いいたします。</p> <p>次に、日程第2 教育長の報告についてです。</p> <p>資料の1ページをお願いします。</p> <p>継続して学校訪問に行っています。18日と19日は、学校教育部長と担当次長と一緒に、長野県の伊那小学校と大日向小学校の視察に行っています。伊那小学校では60年前から探求学習が続いています。時代の変化の中でいろいろな評価をされながらも、60年も続いている探求学習をぜひ見たいということで行っております。大日向小学校は、コロナ禍の前、開校前から何度か行っておりますが、現状を見せていただきたいということで行きました。現在整理をしておりますので、改めて報告をさせていただきますと思います。</p> <p>17日と24日は授業実践研修とありますが、本市の3小学校を指定校として、常石ともに学園を会場に、学校経営も含めた授業づくりの研修を行いました。6回予定しているうちの1回目と2回目になります。</p> <p>また、社会科の授業づくりを叡智学園のユニットデザインから学ぶという研修を始めています。立候補があった9名の中学校社会科教員を対象に、どのような問いから単元を作っていくかということ、叡智学園のカリキュラムから学びます。これに係り、25日と26日は、この研修に参加している教員の社会科の授業を見るために、担当指導主事と一緒に学校訪問に行っています。</p> <p>各小中学校では、なんとか授業を変えていこうと取り組んでいる状況を見ております。以上です。</p> <p>続いて、事務局からの報告をお願いします。</p>
藤野原施設課長	<p>2ページを御覧ください。</p> <p>1 学校整備について御説明いたします。</p> <p>整備内容は、校舎の増改築及び改築工事であり、2ページの番号1西小学校及び番号2常金丸小学校の2校であります。内訳は、増改築工事が1校、改築工事が1校です。完成予定日は、資料記載のとおりです。なお、</p>

西小学校，常金丸小学校はいずれも昨年度からの継続工事であります。また，常金丸小学校の工事が完了しましたら，市内小中学校の耐震化が全て完了します。工事箇所を示した見取り図につきましては，3ページ及び4ページとなります。

本宮学事課長

資料5ページを御覧ください。

3 福山市立学校児童数及び生徒数について御説明いたします。

(1) 小学校です。表は，左から，通常学級・特別支援学級の児童数・生徒数，通常学級・特別支援学級の学級数となっており，計，合計を太線で囲んでいます。

6ページ，表の下「総計」を御覧ください。

児童数は，通常学級21,354人，特別支援学級2,040人の合計23,394人です。学級数は，通常学級795学級，特別支援学級330学級の合計1,125学級です。

7ページを御覧ください。

(2) 中学校です。表の下「総計」を御覧ください。生徒数は，通常学級10,512人，特別支援学級536人の合計11,048人です。学級数は，通常学級303学級，特別支援学級99学級の合計402学級です。

8ページを御覧ください。

(3) 義務教育学校です。鞆の浦学園の児童・生徒数は合計212人，学級数は16学級です。想青学園の児童・生徒数は合計568人，学級数は27学級です。

(4) 高等学校です。生徒数は，合計587人，学級数は各学年6学級の18学級です。

参考として，小中義務教育学校の児童生徒数，学級数の総数及び昨年度からの増減を示しています。小学校・義務教育学校前期の児童数は合計23,883人，学級数は1,151学級です。昨年度からの児童数の増減は，通常学級747人減，特別支援学級148人増，合計599人減，学級数の増減は通常学級12学級減，特別支援学級32学級増，合計20学級増となっています。中学校・義務教育学校後期の生徒数は合計11,339人，学級数は419学級です。昨年度からの増減は，通常学級23人増，特別支援学級33人増，合計56人増，学級数の増減は通常学級3学級減，特別支援学級4学級増，合計1学級増となっています。

以上です。

片山学びづくり課長

資料9ページを御覧ください。

3 福山100NEN教育8th yearの取組について説明いたします。

テーマは，「リアル&デジタル『学びが面白い！』の深化」です。「福山100NEN教育」の4本の柱に基づき，リアルとデジタルをバランスよく組み合わせながら，「学びが面白い！」という内発的動機を喚起する「子ども主体の学び」全教室展開を通して，学力（認知・非認知能力）の向上を目指します。

(2) 現状です。この間，全ての学校で，授業を教師主導から子どもたちの学ぶ過程を大切にし，「子ども主体の学び」に向け，取り組んできています。昨年度，パイロット校の実践の過程を発信し，各学校の取組に生かせるようにしました。子ども一人一人の興味，関心，理解するスピード等を大切にしながら，日々の授業を中心とした教育活動に取り組むことで，やり抜く力，勤勉性といった非認知能力と教科学力が繋がり，数値にも子どもたちの姿にも，変化が現れてきている教室・学校が増えてきています。また，教職員の業務改善については，留守番電話の設置，夏休みの

短縮，補助員等の配置など，業務量削減を進め，時間外在校等時間45時間を超えた教職員の割合は減少しています。一方，やりがいを感じている教職員は，60%前後から増加していない状況です。

(3) 今年度の取組です。現時点での取組の進捗・到達状況に差があっても，福山市立の全ての学校で，「子ども主体の学び」に向け，取り組み，改善し続けています。教職員は，「子どもたちがどう学ぶか」という視点を持ち，「何をどう教えるか」と考え，試行錯誤する過程の中で，「子どもは主体的に学ぶ」という認識を深めてきています。だからこそ，鍛えることの価値が分かり，一人一人の違いを認めながら子どもたちが伸びていくために支えられるよう，「自ら，ともに『鍛える・支える』ことを，子どもたちも教職員も意識し，日々の授業を中心とした全教育活動に取り組みでまいります。また，教職員アンケートの結果を分析したところ，教職員のやりがいは，「挑戦している，教科が面白い，個性が認められている」等との相関が強いことが分かっています。引き続き，業務量削減の取組を進めながら，教職員が「挑戦している，教科が面白い，個性が認められている」と実感できるよう，教材研究を中心に据えた校内研修体制の構築・再構築による学校の組織マネジメント機能を強化していきます。

10ページをお願いします。

主な取組は，4本の柱に基づき進めます。

ア 主体的・対話的で深い学びでは，パイロット校事業の成果と課題に基づき継続・拡充に取り組みます。資料下段の表に，昨年度の成果と課題を整理し，本年度の取組について示しております。幼保小学びの接続カリキュラム開発校では，保育・授業づくりに向けた連携を行い，学びをつなぐカリキュラムを編成しました。本年度は，連携協議会の充実，カリキュラムの実施・改善，そして，義務教育の終わりに身に付けてほしい力を意識し，幼保小中連携への発展に取り組みます。効果的なICT活用実践研究校では，ICT活用場面を単元計画から設定した授業改善に取り組みました。本年度は，教材研究による活用の目的・場面・方法を明確にした授業づくりに取り組みます。

イ 多様な学びの場の充実です。学校図書館整備については，これまでの4年間の取組を整理し，最終年度となる今年度の取組を見直しました。各学校は，学校図書館運営委員会を設置し，子ども，教職員，地域からの様々な意見をもとに，主体的に学校図書館を運営していきます。

ウ 学びをつくる教職員研修では，子ども・教材への理解を深める教材研究を中心に据えた研修の充実として，新たに，広島叡智学園，常石ともに学園の実践を参考に，授業づくり研修を進めます。叡智学園での研修では，中学校社会科を中心に，学園の探究的な学びへの理解を深め，単元づくりに生かしながら授業実践に取り組みます。常石ともに学園の研修では，主体的に学ぶ常石の子どもの姿・発言から，子ども・教材への理解を深め，子ども一人一人の学びを促す授業実践研究を行います。

エ 元気・笑顔で学び続ける教職員では，教職員が，日々の授業を通してやりがいを実感できるよう，国・県・市の事業や各種研修等の継続・充実に取り組みます。また，日本語指導が必要な児童生徒の支援体制の整備として，学校指導員を配置し，専門的な指導・助言を進めるなど，教職員の負担軽減につなげます。

以上です。よろしく願いいたします。

原学校保健課
長

11ページをお願いいたします。

4 通学路の安全対策（緊急合同点検）についてであります。

(1) 趣旨についてです。2021年（令和3年）6月に千葉県八街市で発生した通学路における児童の死傷事故を受け，教育委員会，学校，道

路管理者，警察，関係団体等による緊急合同点検を実施しましたが，当該点検に基づく対策の実施状況や対策効果を報告するものです。

(2) 取組経過です。表にお示ししているとおりですが，2021年度に国から依頼を受けて，緊急合同点検を実施し，道路管理者・警察による対策案の検討などを行い，2022年2月から対策案に基づく対策を実施しているところです。また，本年4月には，小学校における対策効果の把握を行うアンケート調査を実施したところです。

(3) 対策の実施状況についてです。2023年3月末現在の状況をお示ししています。抽出学校数は75小学校のうち64小学校であり，点検箇所数は318箇所です。対策必要箇所につきましては，290箇所となっており，このうち対策着手済の箇所が259箇所，着手率にして89.3%です。対策実施済の箇所につきましては219箇所，実施率にして75.5%となっています。必要箇所数に係る対策件数につきましては，延べ367件であり，このうち，対策実施済の件数につきましては284件で実施率にして77.4%となっています。

12ページをお願いいたします。

対策実施済の件数284件の内訳についてです。(ア)の道路管理者につきましては，ドライバーへの注意喚起，維持管理，歩車道境界の明示などで，国が1件，県が25件，市が127件，合計で153件となっています。(イ)の警察につきましては，横断歩道の修復や，取締りの強化，規制標識の増設など，86件であります。(ウ)の学校，地域につきましては，通学路の変更，ドライバー・自転車利用者への協力依頼や交通安全指導の実施など，45件となっています。

13ページをお願いします。

対策効果の把握についてであります。2022年12月末時点におけます対策実施済の箇所について，今年4月に各学校にアンケート調査を実施しております。学校では，自治会連合会，保護者などと連携して回答をいただいています。該当箇所数176箇所について，効果ありが158箇所，効果が十分でないという回答も含め効果なしとあったものが18箇所であります。さらなる対策の余地がある箇所と受け止め，今後実施していく点検におきましても，より効果があがるよう，関係者と連携して対策案の検討を進めてまいります。

(5) 今後についてです。交通安全指導などのソフト対策は，危険箇所の抽出段階で，各学校において実施しており，継続的に対策を講じてまいります。ハード対策につきましては，地域と連携をしながら，道路管理者及び警察が計画的に実施してまいります。引き続き，対策実施の進捗管理を行いながら，今年度末の対策完了を目指してまいります。なお，2022年度に実施しました合同点検の対策につきましても，今年度と来年度で取り組んでまいります。

三好教育長

御意見，御質問はありませんか。

金委員

授業づくりの教職員研修ということで，広島叡智学園と常石ともに学園に行かれています，常石ともに学園は異学年編成の経過を見るという内容なのでしょうか。また，叡智学園は全然タイプが違うようですが，どういふところを参考にしようとしているのかを教えてください。

片山学びづくり課長

常石ともに学園の授業実践研修について，目的は，自立・共生・自己実現をめざして，子ども主体の学びを追求する常石ともに学園の学びの実際から，実践研究を行うものです。内容は，主体的に学ぶ子どもたちの姿・発言から，子ども・教材の理解を他の学校にも広げていく。つまずきや誤

概念を取り上げて認知の仕組みから学習方法を見直す。教科の本質に迫る教材研究を行う中で各教科・学年の学習内容を考えるとといったことを、小学校3校を指定して、一緒に研究していきます。

広島叡智学園の方は、社会科のユニットデザインから学校理念と関連付けて学習計画を研究することで、自校のユニットデザインを実際に作成し、授業実践をして検証・まとめを行うことを考えております。

横藤田委員

今、ユニットデザインという用語が出ましたが、どういう意味ですか。

本宮学事課長

ユニットデザインは、叡智学園で考えられている学校理念を関連付けた学習計画です。何を探究していくのか、どのような問いを立てて探究していくのかということ、50分の授業ではなく、単元という広くくりで考えて授業を作っていくものです。学ぶべきことを俯瞰して、広い意味で捉えながら、何を学ぶか、どう学ぶかということを考えていく学習計画になっています。

常石ともに学園では、異学年という集団もあるのですが、例えば、先日の研修では、高学年で3桁割る1桁の割り算をひっ算で取り組んでいくとき、どう商をたてるか、その数が何を意味しているのか、そういったことを子どもたちが話し合いながら解決していきます。そこに先生がどういった形で関わっていくのか、子どもと教材への理解を深めながら研修を進めています。

小丸委員

先ほどのユニットデザインについて、どのような単元なのか、もう少し具体的な例をお聞きしたいです。

片山学びづくり課長

例えば、社会科の歴史では、近現代の世界、日本の歴史という大きな流れの中で、学校の探求的なテーマとして、世界との関わりの中からイデオロギーの対立や社会の革新・革命が生じ、持続可能なものが残っていくというテーマをもち、対立やイデオロギー、革新・革命などを念頭において、1回の授業ではなくて、その単元全体で考えて授業を作っていくというものになっています。

金委員

ベースとなる教科書はどのような位置づけになるのですか。同じ教科書ですか。

三好教育長

叡智学園と福山市が使っている社会科の教科書が同じかは分かりませんが、教科書会社が違ったとしても、大きな単元は同じだと思います。

今までは、1時間の授業の中で事象・出来事を中心に教えていたので、大きなテーマで歴史全体を考えるとということがなかなか出来ていませんでした。そこを、いわゆるユニットという、単元や単元を超えた大きな時代について、どういう問いを立てて、どのように捉えるのかという学習計画を作る。ユニットという大きな単元の中で、探求テーマを設定して、そこに向かって調べたり考えたりしながら、歴史の一つ一つの事象を覚えたり、その意味を考えて課題を解決していく。例えば、戦後のイデオロギーはどうやって作られていったのかなどですね。いろいろな歴史的事象を見ていく中で、教科書や資料を使ってそれぞれが探求します。

社会科のユニットをどうデザインするか、計画をどう作っていくか、テーマを何にするのか、どういう過程を踏んで子どもたちが次の段階に行くのかなどを、実際に授業を見せてもらって説明を聞きながら、今の自分の授業に当てはめて考えていきます。

今までも、大きな問いを立てて学習するということはやっているのです

が、ただ調べて終わりというように、なかなか探求になっていない状況です。ファシリテーションという言葉がよく使われますが、子どもの問いや探求が始まる時に、先生がどのように関わりアドバイスをするのか。先生と子どものやりとりを聞いていると、ただ答えを教えるのではなく、子どもの考えを引き出す声掛けや自分で気づくことを促す発言がよくあります。先生が問いを出して、そこから始まる子どもの姿や発言を見ながら先生が関わっていく。全体を止めて教えることもありますが、一方的に順序立てて教えれば理解できる、子どもの意欲が高まるということではないことは分かっています。何とかしようとしてはいるのですが、そこがうまくいっている学校とそうでない学校と様々です。

実際に計画を立ててやっている学校はあるのですが、計画を立てるだけで終わってそれ以上にはならない。そうした中、常石ともに学園は、この間の試行錯誤や取組によって、確実にいい状況になってきています。先生がどう関わっているのか、教材の中身のどこを取り出しているのか、そういうところを見て、きちっとやりとりする必要があります。ただ見るだけでは、子どもが何かやっているなあとか、あれで本当に力がつくのかなという見方しかできません。専門家の人が見ても、最初は何をしているのかわかりにくいですが、ずっと授業を見ていると、先生がしていることとしていないこと、それによって子どもがどう動いているのかが見えてきます。そういうところを、止めて切り取って、解説するということを丁寧していくことが大切です。

金委員

研修で得たものがありますよね。それをどのように活かしているのでしょうか。自分の学校で試してみるのですか。

三好教育長

試すというより、今でも、子どもの主体的な学びということは全体でやっていて、その質の見直しをずっとしています。しかし、なかなか活動ができて、次にいかない状況です。常石ともに学園から学べることは、自校の状況によっても違うと思っています。校長と教員の2人で同じものを見て、自校の状況の中で何からどうするのかを考えながら、実際に自校でやってもらいます。

どの教員も、社会科の授業や探求的な学びを何とかしたいという意識はとてもあります。変えたいという意識はあるのですが、なかなか変わらない状況です。そこで、叡智学園の授業には何があるのか、どうしてこういう探求が始まるのかというところを視察させていただきました。視察後、この研修に参加した教員の授業を実際に見ました。劇的には変わらなくても、授業を変えようと考えられてされている授業だなと感じました。実際に一緒に作りながら、丁寧にやりとりをすれば変わるきっかけになると思います。そうしたことから、今スタートをしたところです。

横藤田委員

私の経験上、歴史の勉強というのは、何年に何が起きたという事象ばかりを覚えて、点で覚えていくというイメージなんですね。しかし、先ほどの教育長のお話を聞いていると、それが線で結ばれて、そして、その時代背景とか、そうやっていった経緯とか、そこが複合されているということで、非常にいいことだなと思いました。年号やその時に起きた事象を覚える中で、そこに、ユニットデザインという時代の背景や大きな世の中の流れがあって、外国との影響があって、また、学校のポリシーが絡んできたりして、非常に面白い授業だなと思います。

三好教育長

作りとしては本当によくできているのですが、実際にテーマを設定するとなるとかなり難しいです。2回目の研修は6月初め頃に行うのですが、

場所は叡智学園ではなくて、うちの中だけで受講者9人と集まって、実際にユニットデザインを作成します。考え方としては理解できても、実際にやるとなるとものすごく距離があるんですね。考え方だけをアナウンスしても何も変わらないので、体験的に実践的に学びながらやってみる。それぞれの個性とか今やっている授業は違うものの、どの教員も、子どもと授業を作っていくという同じ方向に向かって授業をされているのが、見ていてよくわかります。叡智学園を目指すのではないということは、最初から強く言っていて、大事な部分をどのように自分に取り入れていくかというところを9人9様で考えています。そこが自分のものになっていけば、授業の姿も変わって、学校の中での役割を果たせていけると思うんですね。

神原委員

今、お話を聞かせていただいて、楽しそうな学びだなと思いました。私たちの頃からすると、社会科は暗記の科目と割り切って、線を引いたりしてひたすら覚えるという感じでしたが、それとは全然違うのかなと思って、楽しそうだなと思いました。ただ、最低限の点と点がないと、それを俯瞰して見ることや、当時のイデオロギーや国際関係がどうだったのかという学びが展開できないのかなという気がします。今までのように、覚えなさいと教える方が、先生は簡単でやりやすかったと思いますし、授業の差も出なかったのかなという気はします。お話いただいたような学びが展開できればいいんだけど、先生や学ぶ生徒の能力にかかってきますよね。とても理想的な学びだと思っているのですが、保護者目線で考えた時に、実際にそこまでできるのかなという不安があります。もちろんそこができれば、先生方の「挑戦する、教科の面白さを実感する、個性を認める」というところはおそらく達成しうるので、先生のやりがいというところも上がっていくのかなと思って聞いていました。

三好教育長

例えば、ドリルで定着をといっておいて定着していないんですね。覚えても使えていない。だから、理解すること、繰り返すこと、押さえることなどのバランスをどこでどうするか考える必要があります。大きくユニットでデザインしても、具体的な事象や用語など、落ちていくことはいっぱいあります。大きな流れの中で、どうやって具体を押さえていくか、プリントで繰り返し覚えるのか。ユニットデザインによって、断片的な知識が張り付いてつながっていきます。今は、断片的な知識を覚えてもつながっていない状況があります。大きな枠組みも、ひとつひとつの事象も、両方大事です。今、中学校で大きな問いで出しているところで、こぼれているところは、シートを作って覚えたり自分で調べたり、そうした押さえ方をし、今まで授業で一個一個していたところをカバーしています。ひとつひとつの事象を覚えなくていいとか知らなくていいということでは全然ありません。こぼれているところをどうやってカバーするのかということですね。

常石とともに学園でも、基本的なところや書いて覚えるところは入れ込んでやっています。

他にいかがですか。

金委員

児童生徒数のうち、特別支援学級の児童生徒について、小学校は8.7%で、中学校では4.9%と半減近くになっています。知的学級と情緒学級が大半を占めていると思うのですが、小学校から中学校に行くときに半減するというのは何が要因なのでしょう。通級に行くのか、支援学校に行くのか、どのような動きがあって軽快していったのか教えてください。

本宮学事課長	<p>中学校に進学するにあたって支援学級の在籍が減る要因についてです。ひとつは、子どもたちの、特に自閉情緒学級の子どもが持っている課題が改善されたということがあります。次に、高校への進学に向けた受験に対する保護者の懸念があるということです。知的学級の場合、下学年の学習をしますので、受験にあたって下学年の勉強をしていて大丈夫なのだろうかという不安を保護者が持たれ、知的学級でも自閉情緒学級でも改善が見られるようであれば、通常学級への在籍を希望されます。その過程の中で、いきなり通常学級ではなくて、通級に一旦在籍して、いずれは通常学級に在籍するという見通しで就学を考えられる保護者の方々もいらっしゃいます。そういった理由で中学校へ進学する際の在籍の減少につながっております。</p>
金委員	<p>言語とか肢体、聴覚視覚はこの支援学級には含まれていないですか。主に知的と情緒だけだと考えたらいいですか。</p>
本宮学事課長	<p>市内で一番多い支援学級の種別は自閉情緒学級、続いて知的学級になります。難聴学級もありまして、これは西小学校と城北中学校にあります。また、新涯小学校には、弱視学級があります。肢体不自由学級も、市内に数校あります。最近では、地域の学校に就学されることを望まれる保護者もいますので、特別支援学校も選択肢のひとつとして考えながら、保護者の願いや、子どもたちの障がいの状況も踏まえ、子どもたちの就学先を検討しています。</p>
三好教育長	<p>特別支援学級で対応しているものは他に何がありますか。</p>
本宮学事課長	<p>特別支援学級の種別としては、自閉情緒、知的、肢体不自由、病弱、難聴、弱視があります。また、週1回の支援の通級では、自閉情緒と言語の2種類です。</p>
三好教育長	<p>他にいかがですか。</p>
横藤田委員	<p>特別支援学級ということで、時代の要請で、細かな配慮や対応が必要だと思います。先日も、小学校の見学に行ったときに、例えば、海外から移住された子女のために、その兄弟も含め、2人の児童で先生が1人ついておられました。教員不足と言われる中でもそうして対応していくことは必要かと思いますが、特別支援学級はどんどん増えていく傾向ですよね。必要とされるからつくるということを繰り返しては、今後、対応しきれなくなってしまうと思います。例えば、近い学校はまとめて行うとか、何か工夫や対応策が必要なのではないのでしょうか。そのほうが子どもたちのためにもなると思います。複式学級は止めましたよね。そういうことも含めて、特別支援学級の再編ということも考えられるのではないかなと思います。</p>
本宮学事課長	<p>特別支援学級が増加している現状に対して、教職員の人材不足や、担任の先生の専門性がより求められること、また、特別支援学級だけではなく通常学級にも困り感を持っている子どもたちが在籍していること、本当に今の学校で考えていかなければならない課題だと考えております。そうした課題もしっかりと考えて、取り組んでまいりたいと思います。</p>
亀山学校教育部長	<p>児童数の変化について、波はあるのですが、減少傾向になっています。その中で、通常学級が減って、それに反して特別支援学級が増えていると</p>

いう傾向がずっと続いています。多いところでは、特別支援学級が10学級ある学校も市内にあります。また、通級指導教室は拠点化していますので、そこに遠くの学校から保護者が送迎をするという状況もあります。保護者によっては通級指導教室に遠くから通えないから、自校の特別支援学級へという希望を出される場合もあります。今後、特別支援学級と通級指導教室の数のバランス等も考えて検討していきたいと思います。

金委員

100NEN教育のページで、教職員の負担軽減につながる取組の充実の中に、日本語指導が必要な児童生徒の支援体制の整備ということが出てきます。福山市に居住する外国人の数は、1万人を超えていましたが、一時期、コロナで8千人台くらいに減りましたよね。それで、今また1万人を超えて、2%くらいを占めているわけです。そのうち、若い労働者が多くて、子どもは少ないとは言いつつも、10人以上単位では絶対にいるはずで、この支援体制の整備というのはとても大事なことだと思います。実際に、外国から来た児童生徒が何人いて、どのように学校になじませていくかという福山市のプログラムなどはあるのですか。

本宮学事課長

プログラムというものはありません。子どもたちの日本語の習得状況によって、指導方法は2パターンあります。教室から取り出して別室で日本語指導を行うパターンと、いくらか日本語が定着しているようであれば、指導者が教室に赴いて、隣について授業の中でサポートしていくというパターンがあります。その中で、例えば、別室で一緒に勉強する際に、明確な教材といったものが無い状態でした。そこで、今回、専門家を教育委員会に配置して、その者が各学校を訪問する中で、こういった教材がありますよとか、端末を使ってこういうアプリがありますよ、こういうことができますよということを、具体的に共有しながら取り組んでいるところです。今、専門家から様々な意見を聞いておりますので、改めて、日本語指導の改善にも活かしていきたいと思います。

三好教育長

今まで学校任せになっていたところを、今回、指導員を1名、学びづくり課に席を置いて、全部の日本語指導教室に行ってもらい、子どもや指導員の状況を見てもらって現状を把握しながら、どういうものが必要なのか個別に対応してもらいながら、全体をこれからどうしていくかというところの考え方を整理していきたいと考えています。また、報告をさせていただきます。

神原委員

外国人の方が増えてきていて、母国語もしくは第二外国語として英語が話せる方もいますが、英語を話せない子どももいると思います。その人数というのは教育委員会で把握されているのですか。今日でなくてもいいので、また教えていただきたいです。現状、外国から来た子どもで、日本語指導が必要な子どもが何人いて、そのうち何人が英語でのやりとりが大丈夫なのか。英語以外じゃないとやりとりできない子どもについては、先生も教えるのが難しいのではないかなと前々から思っていて、そこら辺のところを今日じゃなくてもいいので、また教えていただければと思います。

片山学びづくり課長

今年度の数はまだ整理できていけませんのでわかりませんが、昨年度の数で言いますと、小学校で78名、中学校で17名の日本語指導が必要な児童生徒がいます。各学校には、アイパッドを配布しまして、翻訳アプリや、そのものを写真で撮ればその母国語がうつるアプリを活用するなど、そういったことも各先生に情報提供しながらやりとりを始めています。今

	までもやっている学校はありましたが、よりそういったことが全校でできるように動いているところです。
三好教育長	他にいかがですか。
金委員	通学路について、危険な水路というのもあると思うのですが、ここには水路はひとつも出てこないですね。水路は対象外なのですか。
原学校保健課長	安全点検をするときに、通学路の経路が水路に隣接しているということがあれば、これまでも対応しています。
金委員	今、そういう危険なところを避けて通学路としていることもあるし、対応してきた経過もあるから出ていないということですか。
原学校保健課長	おっしゃるとおりです。また、転落防止柵を設置するといったケースもあります。
横藤田委員	通学路の件ですが、11ページの(1)趣旨に、関係団体等とありますが、これにはPTAの保護者が入っているのですか。
原学校保健課長	委員のおっしゃるとおり、自治会連合会やPTAなど地域の関係者の方が入られています。
横藤田委員	もう一点、12ページの(ウ)に、除草・草刈・剪定等とありますよね。ここが0となっていますが、私が見る限り、福山市内を走っていると歩道に草が生えて、随分、車道側に出てきています。それが、結果的に道幅を狭めて、子どもたちが自転車で通るときに車道の方によって来ます。例えば、芦田川の土手沿いも、かなり草が伸びて、結局、道幅を狭めていますね。そうしたところの草刈などは、市で難しければ、PTA活動でやってもらうとか、市役所任せではなくて、学校自体が主体となってやっていただけるような仕組みが何かあればいいなと思います。
原学校保健課長	今、言われたような箇所につきまして、例えば、川の土手を通学路が通っているケースがありますが、それは法面に草が生い茂って道路境界が見えなくなるといったものです。そういったところは、地域の方で年に1回か2回、清掃の機会をもつていただいたり、PTAの方で対応していただいたりということがあります。今回の緊急合同点検につきましては、八街市で発生した事故がありまして、見通しのよい幹線道路で車の速度が上がりやすいような箇所や、道路境界が見えにくい箇所など、抽出条件を絞り込んで実施した経過もあります。
横藤田委員	この4月から自転車のヘルメットが努力義務化になりましたよね。しかし、周辺の中学生を見ても、全くかぶっていないような状況が見受けられますが、学校での指導はどうされているのですか。
原学校保健課長	ヘルメットの着用につきましては、中学校では、自転車通学が多いので、学校でヘルメットの着用を義務化しているところがほとんどです。教育委員会としましても、今年の4月から自賠責保険への加入が義務化されたこと、ヘルメットについても努力義務となったことを踏まえ、昨年12月に中学校に対して、新入学生向けの説明会で保護者の方にお問い合わせするよう伝えてあります。全児童生徒に対してもお願いしています。今年の4月

には、市P連の会長の総会の場合がありまして、法律が変わったことや、ヘルメットをつけていることが命を救うために一番重要だということを説明しております。PTAでも、それぞれの学校の方で、PTAの賠償責任保険に入っただけのお願いや、ヘルメット着用の周知啓発、こういったこともしていただいています。市の窓口としては市民生活課がやっていますので、これからも引き続き、連携を取りながら対応していきたいと思えます。

横藤田委員

そうした御指導をされていることはわかるのですが、結果的に、3月までと4月以降を比べてもあまり改善されていないですね。ヘルメットを持っていない子もいると思います。しかし、ヘルメット着用を前提としないと、自転車通学の許可は出せないと思いますね。そうした一段厳しい指導をしないと、言うばかりじゃ進まないと思います。

小丸委員

昔は、自転車通学の許可をもらうときにセットになっていましたよね。だから今もそうしているのかと思っていたのですが違うのでしょうか。

亀山学校教育部長

自転車通学者に対しては安全点検を行っております。その時に、ヘルメットの確認等もしています。例えば、4月の始めに自転車通学者を集めて、自転車の整備がなっているかとか、ヘルメットがあるかを確認して、許可書を出すという流れになります。

ヘルメットの着用については、実態も含めて見ていきたいと思えます。

片山学びづくり課長

2021年度4月16日現在の調査では、中学校は2校を除いて全ての学校でヘルメットの着用を義務付けています。

三好教育長

他にいかがですか。

全教育委員

(なし)

三好教育長

それでは、次に、日程第3 議第10号 2024年度(令和6年度)福山市立福山中学校及び福山市立福山高等学校の入学選抜の基本方針及び選抜日程についてを議題とします。

説明をお願いします。

前田福山中・高等学校事務長

14ページを御覧ください。

議第10号 2024年度(令和6年度)福山市立福山中学校及び福山市立福山高等学校の入学選抜の基本方針及び選抜日程について説明いたします。

15ページを御覧ください。

福山中学校についてです。選抜の方法、合格者の決定につきましては、適性検査の検査1、検査2、志望理由書、調査書により総合的に判断します。3の日程を御覧ください。適性検査は、昨年度と同時期の1月20日土曜日であります。

続いて 福山高等学校です。

選抜の方法及び合格者の決定につきましては、学力検査、調査書、自己表現により総合的に判断します。

16ページを御覧ください。

1 一次選抜についてです。

(1) 選抜の方法の ア 学力検査については、自校作成問題による学力検査で、実施教科は、国語・数学及び外国語(英語)の3教科で行いま

す。イ 調査書については、学習の記録の評定を、第1学年及び第2学年は、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語について、それぞれの指導要録に従って5段階で評定するのに対し、第3学年は5段階で評定した評点を3倍にいたします。ウ 自己表現については、自己表現カードを活用し、自己を認識する力、自分の人生を選択する力及び表現する力を見るため個人ごとに10分以内の面談形式で行います。

1 7ページを御覧ください。

(2) 合格者の決定 についてです。一次選抜の、一般枠による選抜は、学力検査、調査書及び自己表現の配点の比重を6:2:2として、その結果を総合的に判断し決定いたします。なお、現在の段階では、特色枠による選抜での合格者の決定については、行うかどうか決まっていません。

2 二次選抜 についてです。

一次選抜の結果、合格者の数が入学定員に満たない場合、二次選抜を行います。調査書、自己表現のほか学校独自検査（小論文）の結果を選抜の資料に加え総合的に判断し、合格者を決定します。4 日程を御覧ください。学力検査・自己表現は、広島県公立高等学校と同一日の2月27日火曜日から29日木曜日までで行います。

説明については以上です。よろしく願いいたします。

三好教育長

御意見、御質問はありませんか。

金委員

昨年からの変更点はありますか。

前田福山中・
高等学校事務
長

現在のところ変更点はありませんが、先ほど申し上げたように、特色枠での合格者の決定につきましては、行うかどうかを今後、教育委員会と検討しながら、他の県立の中高一貫校の動きを見つつ、検討してまいりたいと考えております。

金委員

昨年は、特色枠はなかったですね。
特色枠を利用して野球部を強化するのではないかと危惧したこともありましたが、そうではないということを校長先生は明言されておりました。
今どうするか迷っているということは、学校の方針を変えていくということでしょうか。

前田福山中・
高等学校事務
長

野球部の強化といった点で特色枠の決定を行うことは考えておりません。方針が変わるということではなく、去年と同じです。

三好教育長

他にいかがでしょうか

横藤田委員

先日、寮の完成式に出席させていただいた際、地域の方々の捉え方等を伺って、残念ながら少し捉え方が違うのではないかと感じました。
我々は、広島県全域から生徒を募集するための寮であると認識していますが、地域の方々は、特定のスポーツ部門だけのためだと捉えられておりました。学校全体がそういった認識にならないようにしていただければと思います

前田福山中・
高等学校事務

4月末ごろ、近隣の町内会の方々にも寮や屋内練習場の見学をしていただきました。その際にも、広島県全域から来る生徒のものであって、野球

長	部に特化したものではありません、といった説明はしておりますし、そう理解していただいているものだと思っております。
三好教育長	他にいかがでしょうか
全教育委員	(なし)
三好教育長	ないようですので、お諮りします。 議第10号は、原案どおり可決してよろしいでしょうか。
全教育委員	(異議なし)
三好教育長	御異議ないようですので、議第10号は原案どおり可決しました。 それでは、次に、日程第4 協議事項 再編後の学校に係るアンケート調査結果についてを議題とします。 説明をお願いします。
皿海学校再編 推進室長	19ページをお願いします。 協議事項 再編後の学校に係るアンケート調査結果について、御説明いたします。なお、別冊資料のアンケート調査結果は、前回と同じ資料でありますので、説明の方は省略させていただきます。 (1) アンケート調査結果の概要については、記載のとおりです。 20ページをお願いします。 (2) 考察及び今後の取組について、まず、想青学園前期課程の状況についてです。 ア 児童についてです。 学校生活では、9割以上の児童は「学校が楽しい」と答え、その理由は、「友だちが増え、活動できる範囲が広がったから」「後期課程の人と交流できるから」などでした。旧内浦・内海・能登原・常石小の児童のほとんどは、「楽しい」と回答し、その理由は「多くの友だちと遊ぶ・学べる」などと答えています。一方、1割弱の児童が「学校が楽しくない」と答え、その理由は「苦手な子がいるから」「勉強が苦手だから」などでした。児童の多くは学校生活を楽しく感じており、新しい環境にも馴染んでいることがわかります。3学期からは、新校舎での学校生活が始まり、義務教育学校のメリットを生かした集団づくりが進められています。楽しくないと感じている児童に対しては、その理由を踏まえ、担任が児童と話をするなど、必要な対応を行っています。引き続き、子どもの様子を見ながら個別の支援を行っていきます。 授業では、約9割の児童は「新しいことを知ったり、調べたりすること」が楽しい、「『分かった』・『できた』と実感することがある」と回答をしており、その理由は「班や友だちと勉強でき、知らないことを知ることができて楽しい」などでした。21ページをお願いします。校区の歴史文化等を素材に探究的に学習する「SOSEI学」では、地域の人々と交流し、地域のためにできることを考え、実践することに取り組んでおり、子どもたちは、授業を楽しく感じ、学ぶ過程で「分かった・できた」と実感しています。一方、約1割の児童が否定的な回答をしており、理由は「もう少し調べ学習を増やしてほしい」「もっと発言しやすくなりたい」などでした。改めて、子どもたちの学ぶ姿を見る中で、SOSEI学や各教科をつなげながら、学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいきます。 記述回答では、質問項目として「想青学園で学ぶようになってから気づいたこと」「困っていること」「学校の規模が大きくなって感じているこ

と」について聞きました。学校の規模が大きくなって感じていることについては、旧内浦・内海・能登原・常石小の児童は、「話し合いのとき、色々な意見が出て嬉しい」などの意見があり、多様な友だちと関わり合い、学び合うことを楽しいと実感している様子が伺えます。

次に、イ 保護者についてです。

学校生活では、9割以上の保護者は「子どもが新しい学校を楽しく過ごしている」と回答し、その理由は、「帰ってきたときの表情がハツラツしている」などでした。22ページをお願いします。一方、1割弱の保護者は「子どもが新しい学校生活を楽しく過ごしていない」と回答し、その理由は「環境の変化に適応できていない」などでした。保護者は、子どもの話や表情や態度から、安心されたり心配されたりしています。環境に馴染めていない児童には、引き続き個に応じた支援を行うとともに、他者を大切に作る集団づくりを進めていきます。

記述回答では、22ページから23ページにかけて、質問項目として「教育活動について良いと思うことや課題に思うこと」「子どもたちが成長したと思われること」「今心配に思われていること」「学校の規模が大きくなって感じていること」「教育活動を充実させるため、保護者としてどんなことができると思うか」などを聞きました。22ページの教育活動について良いと思うこととして、「SOSEI学」で地元のことを理解し、児童が主体のイベントを計画実行し、地域へ教育という現場をオープンにしている」「新しい校舎で過ごせる環境が良い」などといった意見がありました。一方、課題と思うこととして、「7校が一緒になり、多数のものを当たり前とされ、少数のものへの配慮がされていない」などの意見があり、全教職員で、再編前の学校のやり方を当たり前としないことを改めて確認しています。想青学園になって子どもたちが成長したことや、保護者の関わりについては、「多くの友達の中で、人間関係を構築したり、コミュニケーションスキルを磨いたりしていると感じる」などの意見があり、子どもの成長を見守り、励まし、応援してくださる保護者の姿が伺えます。23ページの中ほどをお願いします。学校の規模が大きくなって感じていることについて、旧内浦・内海・能登原・常石小児童の保護者は、「色々な友だちと意見交換し、他者への気持ちが持てるようになった」「先生と保護者、保護者同士の関係が希薄になった」などの意見がありました。多くの保護者は、子どもの成長している姿を通して、学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えています。一方で、教員や保護者同士との関わりが薄れてきていると感じているため、「かかわる・つながる」ことを大切にされた教育活動等を通して交流を深めていきます。教育活動を充実させるため、保護者としてできることでは、「お手伝いできることは積極的にしたい」「コミュニティ・スクールについて、保護者・地域の理解がついていけない」などの意見がありました。コミュニティ・スクールは「学校運営協議会」を設置した学校であり、学校・地域・保護者等が一体となって、多くの保護者や地域の皆さんに学校運営に参画していただき、教育内容の充実を図っていきます。

ウ まとめです。

子どもたちは、「多様性を認め合い、自ら考え、意欲的に学ぶ」ことに向け、地域の方々の温かい協力を得て、特色ある教育を行う中でそれぞれが努力し、着実に力を付け、成長しています。24ページをお願いします。保護者には、授業参観など行事等をとおして、子どもたちの姿を見ていただき、新しい環境に馴染もうと努力している子どもたちを応援していただいています。想青学園は、「かかわる つながる」ことを大切にされた学校づくりを進め、SOSEI学やコミュニティ・スクールの取組をとおして、地域・家庭・学校が一体となって教育内容の充実を図っていま

す。教育委員会は、学校とともに、多様な友達と学び合える環境だからこそ、すべての子どもたちが持っている「やりたい」「知りたい」という思いをより一層大切にしながら、一人一人の内発的動機に基づいた学力の向上を追求していきます。

次に、想青学園後期課程についてです。

ア 生徒についてです。

学校生活では、8割以上の生徒は楽しいと答え、その理由は、「友だちと話をすることや、部活や学習することが楽しい」「他の地域の生徒や他学年と交流ができるから」などでした。旧内浦・内海・能登原・常石小から進学した7年生と旧内海中の8・9年生の86%が楽しいと回答し、その理由は「みんなと話したり、意見を交流したりするのが楽しい」などでした。25ページをお願いします。一方、2割弱の生徒が「学校が楽しくない」と答え、その理由は、「クラスの雰囲気がよくない」などでした。生徒の多くは学校生活を楽しく感じており、新しい友だちも増やしながら、新たな環境に馴染んでいっています。楽しくないと感じている理由は、クラスの状態や友だち関係にあることから、授業改善やお互いを思い合える集団づくりに取り組みました。引き続き、学びが面白いと実感する授業づくり、お互いの意見や違いを認め合える集団づくりに取り組みます。

同ページの中ほどより下あたりをお願いします。

部活動については、約6割の生徒が部活動に参加し、そのうち8割以上の生徒が楽しく活動していると回答しています。「自分の実力を試したり、仲間と高め合ったり、友だちと競い合って力をつけていくのが楽しい」など、仲間と切磋琢磨しながら取り組む中で、達成感を共有し合っている姿が伺えます。

26ページをお願いします。

記述回答のうち、学校の規模が大きくなって感じていることについて、旧内海中の生徒は、「新しいことがたくさんあって楽しい」「話しかけることは自信がないけれど頑張っている」などの意見があり、多様な友だちと関わり合う中で、不安を感じたりもしながら、コミュニケーション力や社会性を育てていることがわかります。

イ 保護者についてです。

学校生活では、約9割の保護者は子どもが新しい学校生活を楽しく過ごしていると回答し、その理由は、「学校での楽しい出来事をたくさん話してくれる」などでした。一方、約1割の保護者は子どもが新しい学校を楽しく過ごしていないと回答し、その理由は、「環境、人間関係に馴染めていない」などであり、アンケート後すぐに声をかけるなど個別に対応していますが、引き続き、個に応じた支援を行っていきます。記述回答として教育活動について、良いと思うこととして、「SOSEI学で地域のことを知ることができる」「多学年での交流や新校舎での環境がよい」などといった意見、一方、課題と思うこととして、27ページにかけて「運動会は前期課程と後期課程別々にした方がよい」という意見が出されています。学校行事の在り方については、全校で行うもの、前期・後期で分けて行うものなど、行事の目的や教育効果、保護者の意見等をふまえる中で検討していきます。27ページの下段のほうをお願いします。学校の規模が大きくなって感じていることについて、旧内海中生徒の保護者は、「集団規模の大きさに戸惑いストレスを感じていることが心配」などの意見がありました。今後も、様子を見ながら声をかけ、話を聞くなど対話を大切にされた個別の支援を行います。28ページをお願いします。教育活動を充実させるため、どんなことができるかでは、「住んでいる町の誇りを全国にPRする取組を子どもたちと一緒に考えて発信したい」などの意見があり

ました。コミュニティ・スクールの取組に、多くの保護者や地域の皆さんに参画していただき、教育内容の充実を図っていきます。

ウ まとめは、前期課程と同様です。

29ページをお願いします。

新市中央中学校についてです。

ア 生徒についてです。

学校生活では、9割以上の生徒は楽しいと回答し、その理由は、「新しい友だちが増え、人と話す機会が増えた」「友だちが多く、それぞれ個性があって学校に行くのが楽しい」などでした。特に常金丸小から進学した生徒と旧常金中の生徒のほとんどは楽しいと回答し、その理由は、「たくさんの人と交流できてよい」「少人数ではできない授業や行事が増えて今後活かせる経験ができていいる」などでした。一方、1割弱の生徒が「学校が楽しくない」と回答し、理由は「勉強が苦手」「友人関係」などでした。生徒の多くは学校生活を楽しく感じ、新しい環境に馴染んでいます。楽しくない、友だちとの関係づくりがうまくいっていないと感じている生徒に対しては、アンケート後すぐに生徒と話をし、必要な対応を行っています。

授業では、約9割の生徒は「新しいことを知ったり、調べたりすること」や「自分で考えたり、友だちと話し合ったりすること」が楽しいなどと回答をしており、その理由は「友だちがわかりやすく勉強を教えてくれる」「学び合いをする授業が楽しい」などでした。学校では、全ての学級で「子ども主体の学びづくり」に取り組んでおり、企業から新サービスの開発等のミッションを受け、協働して解決策を提案するなど、課題解決学習に取り組んでいます。30ページをお願いします。一方、約1割の生徒が否定的な回答をしており、「授業の内容で分からないことがあるまま時間が過ぎるから困る」などの理由でした。教員は、改めて子どもの現状から授業を振り返り、学ぶ喜びを感じられる授業づくりに取り組んでいます。

部活動では、約7割の生徒が部活動に参加し、そのうち9割以上の生徒が楽しく活動していると回答しています。「だんだん上手になっていく自分の成長を感じられる」など、仲間と切磋琢磨しながら、自分の力を高めたり、達成感を共有し合ったりする姿が伺えます。

記述回答のうち学校の規模が大きくなって感じていることについて、旧常金中生徒からは、「自分と違った意見を持っている人も増え、新しい考えや知識などを身に着けることができた」「最初はしんどかったけど、今は良かったと思う」などの意見があり、多様な友だちと関わり合う中で、不安を感じたりもしながらコミュニケーション力や社会性を育てていることが分かります。

31ページをお願いします。

イ 保護者についてです。

学校生活では、約9割の保護者は子どもが新しい学校生活を楽しく過ごしていると回答し、その理由は、「わかりやすい授業で、丁寧に指導されている」などでした。一方、約1割の保護者は子どもが新しい学校を楽しく過ごしていないと回答し、その理由は、「勉強についていけない」「生活環境が変わり、ストレスを感じている」などでありました。

記述回答による教育活動について、良いと思うこととして、「自ら考え、意見をみんなと話し合う授業」「子どもの情報をしっかり発信してくれる」などの意見があり、今後も地域の方々の協力も得ながら教育内容の充実を図り、子ども主体の学びを推進するとともに、保護者、地域の皆さんに学校の取組を理解し、応援していただけるよう、情報発信に努めます。32ページの中ほどをお願いします。学校の規模が大きくなって感じ

ていることについて、旧常金中生徒の保護者からは、「たくさん的人数でしかできない事ができるのは良い」「学校と保護者の距離が遠くなった」などの意見がありました。多くの保護者は、子どもが友だちと関わりながら成長している姿をとおして学校規模が大きくなったことを肯定的に捉えています。一方、教員や友だちとの関わりが薄れていると心配されており、引き続き、子どもの様子を見ながら、対話を大切にした個別の支援や仲間づくりを行っていきます。

ウ まとめです。

新市中央中学校は、「オール新市で日本一の学校をつくろう」という目標を掲げ、キャリア教育を中心に、地元企業と連携した課題解決学習に取り組んでいます。また、2023年度からコミュニティ・スクールを導入し、学校・地域・保護者が一緒になって考え、教育内容の充実を図りながら、地域とともにある学校づくりを推進していきます。

説明は以上です。よろしくお願いいたします。

三好教育長

御意見、御質問はありませんか。

金委員

アンケートの調査結果を見ると、想青学園については、小規模校からきた子どもたちにはむしろ不満がないですね。新市中央中学校も同じで、学校の規模が大きくなって満足度が高くなっています。小規模校がいいという意見の方が少し多いくらいかなと思っていましたので、ここが意外でした。ただ、部活動においては差が出ているようですね。

もともと大規模校にいた子どもたちの方が、実数としては少ないですが、不満がある傾向にあるのかなと思いました。

それから、19ページの文章について、アの目的の5行目ですが、「アンケート調査」を「学校再編後のアンケート調査」に、「状況」を「現状」に、6行目の「取組」を「学校経営の取組」とした方がわかりやすいかなと思いました。

また、アンケートは再編前にも実施し、再編後のアンケートと比較することで、より再編の効果というものが明らかになってくるのではないかと思います。この再編後のアンケートだけでも、満足度が高いということは表れているので必要ないかもしれませんが、余裕があれば実施していただいてもいいように思います。

藤井管理部長

傾向の分析としては、最初に委員が言われたように私たちも受け止めています。実際に子どもたちの姿を見る中で、小さい学校からの子どもたちは、再編後の学校で、期待と不安がいっぱいな中、自分から前向きに行動している姿が見られます。例えば、学級委員長に立候補したり、委員会活動に積極的に取り組んだり、前向きに、一緒になったから頑張ろうという思いや姿勢を、子どもたちの姿から見ることができます。本当によく頑張っているなと思います。また、学校が楽しいと感じていることは、自分自身の努力だけではなくて、友だちから助けられているところ、教職員の丁寧な声掛けというところが大きく、とても大事なところだと思っています。

それから御意見いただいた資料中のアンケートの目的の記述については、委員の御意見も踏まえながら、修正を考えていきたいと思っています。

今後については、再編前のアンケートをとって再編後と比較するという御意見を、委員から以前もいつもいただいております。再編前の学校のことをやはり子どもたちは大好きなので、アンケートをとると、おそらく好きです・大好きですという回答になり、そうした中で、再編後との比較になると想定しています。私たちがアンケートを通してしっかりと取り組みた

いことは、再編後の子どもたちの状況から、その後、子どもたちにどう関わっていくか、学校とどう連携していくかということで、再編後のアンケートをとっている状況であります。今後アンケートをとる際には、改めて相談をさせていただきたいと思います。

金委員

わかりました。前後の比較というのは科学的によくあることなので提案しましたが、管理部長の言われるように、再編後のアンケート結果からでも今回のように分析できますので、これでいいのかもしれない。

神原委員

学校再編に向けて地域の方とか保護者の方、そして教育委員会が密に話し合っただけで船出をしたからこそ、おおむね楽しいという意見が多くよかったかなというのが全体の感想です。

ただ、想青学園については、学校名をこの委員会で考える時も、ひとつになるということで思いをこめて想青学園という名前をつけました。しかし、結果を見ると、義務教育学校になってよかったという意見があまり見えてきません。実際、開校式に参加させていただいて、小1から中3までの児童生徒を前にイベントをすることは大変なことだなと感じました。じゃあどうやって小学校と中学校を一つにまとめるかというのは、先生も苦労するところだと思いますが、やはり、義務教育学校になってよかったという意見も出てくるようになることが、これからの課題なのかなと思いました。

地域の方からいろいろとお話を聞くこともあります。例えば、制服について、小学校は私服ですが、中学校になると制服になります。これも、はたから見たらばらばらだよねということと言われる人もいます。とある学校では、下の学年は制服で上の学年になると私服というシステムがありますが、結局、小学校6年生までは自由で、中学生になって急に変わるというところが、地域の方も違和感を覚えているみたいです。実際、子どもたちはどうなのかということは、私も気になっています。制服がかわいいから着たいとか意外と子どもたちは好意的なのかもしれないけれども、地域の方はそのように言われていました。

それから、運動会についてです。私も実際に行きましたが、小1から中3までが一緒にやるということで、保護者の席は譲り合ってくださいということになっていて、自分の子どもが出ない時は入れ替わったりするような状況の中、立ち見の人も多かったです。今、校舎を取り壊しているのだから、狭い敷地に全員が集まるとそうするしかないのかなとは思っていますが、あれでは、運動会を別でやってほしいという意見が出るだろうと思いました。しかし、別にやるのがいいのかというと、義務教育学校の良さはどうなんだというところがあるので、難しいとは思いますが、イベントを工夫して義務教育学校の良さを生かしていくのがいいのかなと思います。この義務教育学校の良さというのが次の課題だと思いました。

もうひとつ、資料の23ページに、コミュニティ・スクールについて保護者・地域がついていけないという意見がありますが、コミュニティ・スクールというのは地域や保護者の方が積極的に参加していただいて、御意見をいただいて、活発化することで良さが生きてくるシステムだと私は考えています。保護者・地域がついていけないというのは、その良さが機能しないのではないかが気になることです。人数も大きな学校になって、いろいろなところから集まる分、保護者や地域のまとまりが難しいというのは理解できるのですが、だからこそコミュニティ・スクールで保護者の方、地域の方が様々に意見を言っていただいて、積極的に参加していただいて、学校運営が機能化していくことが大事なのかなと思いました。

藤井管理部長	<p>先日の運動会は、学校も十分にグラウンドが使えない中で、どのようにしようかとすごく悩んだ中でのこのたびの実施でした。義務教育学校の良さを実感できる運動会をということで、全学年で開催しました。保護者からの意見では、9年生が中心となって下級生をリードしながらよくやっていた、後期課程の生徒の活動を見て下級生の児童が盛り上がっていたということを聞いています。校舎も一緒になりましたし、一緒に学校生活をする中でいろんな行事・教育活動ができるので、そうした行事を通して、義務教育学校の良さが出てくると思います。また、教職員も、一つの職員室で、教育活動やカリキュラムをいつも一緒に考えて子どもたちと関わっています。特にSOSEI学については、今年度、学年段階に応じたいろんなことを企画していますので、ぜひ期待していただきたいと思います。</p> <p>コミュニティ・スクールについては、人材バンクという形で、参画してくださる地域の方々を募集しております。実際に子どもたちは、SOSEI学で地域の方とのつながりをたくさん持つようにしていますが、そうした参画してくださる方をどんどん増やしていきたいと考えています。</p> <p>それから、想青学園は、情報発信をしっかりとしていこうということで、今回、インスタグラムを開設しました。学校が今こういう活動をしているという情報をタイムリーに知っていただきたいと思います。これは、コミュニティ・スクールの学校運営協議会で提案されました。こうした学校の情報を広げていくということも、学校運営協議会でしっかり議論していきたいと思います。</p>
三好教育長	他にいかがですか。
横藤田委員	再編によって遠くから通うことになった子どももいるかと思いますが、通学の不便について、保護者からの意見がありましたでしょうか
藤井管理部長	通学については、開校してすぐ、4月の段階でアンケートをとるなど状況を確認しながら改善をしています。バスに乗り遅れた時に、保護者が送迎しないといけないというところで不便だなというところはありますが、実際は、遅れたら対応されているので、そうしていただいているところです。
横藤田委員	今までより早く家を出ないといけないとか、そうした不満の声はありませんか。
藤井管理部長	教育委員会にそうした声は届いておりません。
三好教育長	他にいかがですか。
全教育委員	(なし)
三好教育長	<p>それでは、いただいた御意見を参考に修正します。 これより秘密会とします。 傍聴人は退席してください。</p> <p>(傍聴人 退席)</p>
三好教育長	予定しておりました議案は全て審議いたしました。他に何か、ありませんでしょうか。

全教育委員

(なし)

三好教育長

ないようですので、本日の教育委員会会議はこれで終わります。

【閉会時刻 午前11時00分】